

みずの さへい 水野 佐平

(1891年～1972年)

水野佐平は日本を代表する「箏づくり師」であると同時に、「名品」と称される箏の蒐集家でもありました。『一人でも多くの人の眼に』との考えから、1963年、氏は秘蔵の「名匠二代目菊岡太助作」の箏をフランスの国立パリ高等音楽院付属楽器博物館に寄贈されました。これをきっかけに、1966年には、大阪音楽大学にも逸品の数々をご寄贈くださいました。64点にも及ぶこれらのコレクションはやがて当館開設の礎となり、そして、氏の箏に対する情熱は1968年、勲六等単光旭日章という形で讃えられました。

かざ り ごと 飾り 箏

江戸時代初期に誕生した俗箏（宮中などの雅楽に用いる楽箏に対する呼称）は、雅楽の箏からしだいに推移してきました。江戸時代後期には絢爛豪華な装飾を施した「飾り箏」が大名らのもとで製作されるようになりました。巧の技術が熟成し、楽器にも活用されたと考えられます。日本の伝統工芸である象嵌、蒔絵など精緻な装飾は、美術品として私たちの目を楽しませてくれます。現在では、需要、素材入手、工具の製作などから、技術の継承が難しくなっています。

「箏」は長い形状から龍になぞらえられます。

- ・ 龍頭（楽器の左側）には、舍利（象牙や鯨骨、獣骨）の細かな象嵌細工、その周りには唐草模様など精緻な蒔絵が施されています。
- ・ 礎（楽器の側板）には、鶴の図案が金蒔絵で描かれています。
- ・ 龍尾（楽器の右端）には鼈甲を用いています。
- ・ 琴柱（各絃の音高調整の道具）には家紋が蒔絵で記されています。

飾り箏は、裕福な階級の装飾品や婚礼調度品として製作されました。展示の楽器は「龍甲（胴の上面）」に、琴柱を立てた際の跡が残されていることから、奏でて愛用されていたことが読み取れます。

こと そう しょう そざい 箏の装飾と素材

- ・ 象嵌 … 木材等の地に模様を刻み、他の素材（金属、象牙、貴石など）を嵌めこむ技法。
- ・ 蒔絵 … 漆を塗った上に、金銀や色粉などを蒔いて絵模様を表す。
- ・ 鼈甲 … 亀（玳瑁）などの甲羅、櫛や眼鏡の縁にも使用される。